

校長室通信

津谷中学校 校長 今野勝美

令和 3 年 2 月 5 日（金）

以前、校長室通信を発行していた校長先生がいらしたということを知っておりましたので、私も不定期ながら生徒または保護者の皆様に向けて発行したいと思います。

今回は **節分が 2 月 2 日にあること** についてです。

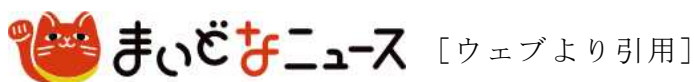
節分と言えば、私たちは 2 月 3 日をイメージし、翌 4 日が立春という感じで定着していました。それなのに何で今年（2021 年）は 2 月 2 日が節分、翌 4 日が立春なのか？

私は、学習とはこのように不思議に感じた時に、調べることが、興味関心を高めるとともに、やがては学力向上にもつながるのではないかと考え、先生方を通して生徒たちに伝えるようお話ししました。

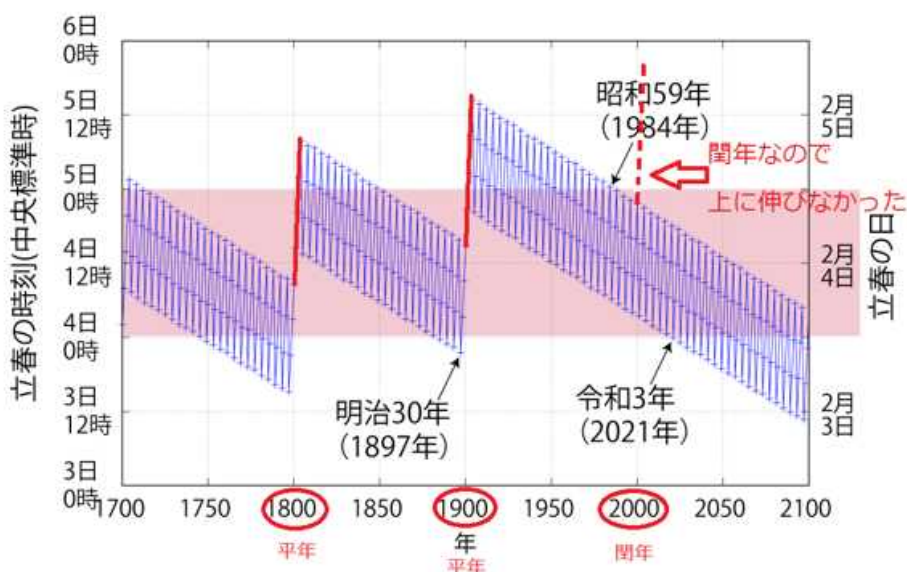
節分が 2 月 2 日になるのは 1 2 4 年ぶり

節分が 2 月 2 日になるのは、何と明治 3 0 年（1 8 9 7 年）以来、実に 1 2 4 年ぶりの出来事です。

なぜかというところ、1 太陽年（太陽の周りを地球が 1 周する 1 年）は 3 6 5 日ではなく、3 6 5 . 2 4 2 2 日であることから、4 年に 1 度 ^{うるう} 閏年をもうけて調整しています。ところが 3 6 5 . 2 5 日であればきちんと収まるのですが、「2 4 2 2」という半端な数字があり、それが積もりに積もった結果、それを調整するために 2 月 2 日になったということです。



このニュースにページから、「今年の節分が 2 月 2 日なのは 2 0 0 0 年に原因が！？… “子午線のまち” 明石・天文科学館の館長が徹底解説」というタイトルがあったので続けて調べてみました。



今年の節分が2月2日なのは2000年に原因が！？… “子午線のまち” 明石・天文科学館の館長が徹底解説）－ライブドアニュース（Web）より引用－

グレゴリオ歴は1年を365日（平年）とし、4で割り切れる年を閏（うるう）年とすることは、私たちがよく知っているカレンダーです。実は100で割り切れる年を平年、400で割り切れる年を閏年とするルールで運用されています。

それは、地球が太陽の周りを1周する公転時間がぴったり365日ではなく、365日とさらに約6時間弱かかるからです。そのため4年で約23時間の「遅れ」が生じてしまい、これを修正するために4年に1度、1年を1日増やした366日にして調整しているのが閏年です。

しかし、4年に1度1日（24時間）増やすと逆に約1時間「進みすぎ」になってしまい、これが100回積み重なると（つまり400年経つと）、なんと約73時間（＝約3日）の進みすぎとなってしまいます。

そこで400年の間に訪れる100回の閏年を97回に減らして調整することにしました。誰もが覚えやすいように…と、100で割り切れる年は平年に、400で割り切れる年は閏年にする一方で、閏年の数を3回間引けるように設計しました。

【節分がずれるのは？】

節分は二十四節気の一つ立春の前日を差します。二十四節気というのは、地球が太陽の周りを回る公転軌道を24個に分けた地点で、地球と太陽の位置によって決まっています。そこにグレゴリオ歴を重ね合わせると上の説明のようにちょっとずつ、ずれが生じてきます。例えば19世紀。国立天文台によると、1853年、地球が立春の瞬間を迎えたのは2月4日5時20分ごろ。1854年は4日11時ごろ、1855年は4日17時ごろ、1856年は4日23時ごろと、約6時間ずつ遅れていきましたが、この年は閏年なので翌年1857年の立春は4日の4時40分ごろと「遅れ」が戻され、逆に40分ほど「進みすぎ」ていることが分かりました。

その後、閏年のたびに「進みすぎ」が積み重なり立春の日付が変わり、1884年は4日18時ごろ。その年は閏年なので遅れが戻された1885年は3日の23時40分ごろになりました。400年ぶりの“超レア閏年”だった2000年ですが、「進みすぎ」はその15年前、100で割り切れる1900年に閏年を平年にする事で解消されました。ここで2000年の閏年が鍵になってくるわけですが、20世紀も19世紀同様に遅れを戻すための閏年によって逆に進みすぎが蓄積していきました。そして迎えた2000年。2000は100で割り切れますが、400でも割り切れるので平年にはせず、閏年になります。1600年以來、実に400年ぶりの超レア閏年でした。そして平年ではなく閏年になったために進みすぎは解消されることなく蓄積を続け、ついに今年、立春の瞬間が3日23時59分になったというわけです。

この「進みすぎ」基調が解消されるのはまだまだ先ということです。この調子で『進みすぎ』が続いていきますから、しばらくは4年に1度のペースで立春が3日、つまり節分が2日になります。2050年ごろから2年連続で節分が2日になり、2100年に近づくと、4年に3度は2日です。『毎年2月3日は節分』という状況が戻ってくるのは22世紀になってからです。2000年の閏年も当たり前前に過ぎていきました。でも長い暦の歴史の中では大きな「転換点」だったということです。